

# (仮称) 第 2 次町田市一般廃棄物資源化基本計画 【骨子】(案)

## 第 1 部 基本的事項

### 第 1 章 計画策定の趣旨

町田市（以下、「本市」という。）では、2011 年 4 月に「町田市一般廃棄物資源化基本計画」（以下、「前計画」という。）、2015 年 11 月には、「ごみ減量アクションプラン」（以下、「アクションプラン」という。）を策定し、市民・事業者・行政の協働のもとに、様々な施策を進めてきました。その結果、資源を含む総ごみ量は減少傾向にありますが、資源ごみ処理施設の整備が遅れていることや生ごみの減量が進まない等の理由により、前計画に掲げたごみとして処理する量 40%削減の目標達成は難しい状況となっており、引き続きごみ減量を進める必要があります。

前計画の策定から 10 年を迎えるにあたり、ごみ量の推移やその質の変化、近年の関連法制度等の改定、社会情勢の変動といった本市を取り巻く現状を踏まえ、その課題への対応も求められています。

こうした状況の中、市の責務である一般廃棄物の処理に係る長期的な視点に立った新たな方針を明確にするため、「(仮称) 第 2 次町田市一般廃棄物処理基本計画」（以下、「本計画」という。）を策定します。

### 第 2 章 計画策定の基本事項

#### ■計画の位置づけ

本計画は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 6 条第 1 項」の規定に基づき策定します。

国の関係法令や計画、東京都の計画を踏まえると共に、町田市基本計画「まちだ未来づくりプラン」や「町田市環境マスタープラン」、現在策定中の「(仮称) まちだ未来づくりビジョン 2040」等関連計画とも整合を図ります。

#### ■計画期間

本計画は、計画期間を 2021 年度から 2030 年度までの 10 年間とし、5 年ごとに見直しを行います。

図 1 計画の期間

年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
内容	策定期間		次期計画期間 (2021~2030)									
			計画前期					計画後期				
			中間見直し									
	基準年度		計画開始年度			中間目標年度						計画目標年度
			★新たなごみの焼却施設等稼働				★資源ごみ処理施設稼働予定(相原)				★資源ごみ処理施設稼働予定(上小山田)	

## 第2部 ごみ処理基本計画

### 第1章 現状と課題

#### ■前計画の評価

＜達成状況＞ ○:達成済み、概ね達成 ×:達成できない見込み  
△:5割以上達成できる見込み

#### ＜全体目標＞

ごみとして処理する量<sup>※1</sup>の40%削減

基準年度(2013 <sup>※2</sup> )		現状(2019)	目標年度(2020)	達成状況	
99,438t	→	94,309t	60,000t	あと約34,000t	×
-	→	5.1%削減	40%削減	あと34.9%削減	

※1:可燃ごみ・不燃ごみ・粗大ごみ・有害ごみの合計 ※2:アクションプラン策定時に基準年度を2013年度に変更

#### ＜個別目標＞

##### ① 1人1日あたりごみ量(資源及び生ごみ自家処理量を含む)

基準年度(2013)		現状(2019)	目標年度(2020)	達成状況	
833g	→	769g	782g	目標達成!	○

##### ② 資源化率<sup>※3</sup>

基準年度(2013)		現状(2019)	目標年度(2020)	達成状況	
25.9%	→	24.6%	54%	あと29.4ポイント	×

##### ③ 生ごみの焼却量

基準年度(2013)		現状(2019)	目標年度(2020)	達成状況	
24.311t	→	22.459t	0t	あと22,459t	×

##### ④ 容器包装プラスチックの資源化

基準年度(2013)		現状(2019)	目標年度(2020)	達成状況	
0t	→	408t	6,700t	あと約6,300t	×

##### ⑤ 温室効果ガスの削減

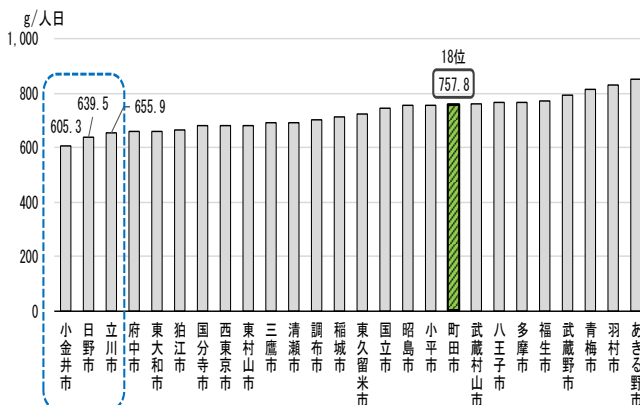
基準年度(2013)		現状(2019)	目標年度(2020)	達成状況	
47,016t-CO <sub>2</sub>	→	33,000t-CO <sub>2</sub>	17,000t-CO <sub>2</sub>	あと約16,000t-CO <sub>2</sub>	×

※3:資源化率には焼却灰をエコセメント化する量を含まない。

#### ■他市との比較

多摩地域各市における2018年度の1人1日あたりごみ量(資源を含む)を比較すると、本市は757.8g/人・日で26市中18位となっており、上位3市と比較して100g以上多くなっています。また、家庭系ごみ(資源を除く)と事業系ごみ共に、1人1日あたりごみ量は多摩地域の中で多い状況です。

図2 多摩地域各市の1人1日あたりごみ・資源排出量



資料:多摩地域ごみ実態調査(2018年度統計)

図3 多摩地域各市の1人1日あたりごみ排出量

＜家庭系ごみ(資源を除く)＞

単位:g/人・日

順位	自治体	排出量
1	西 東 京 市	361.4
2	府 中 市	363.1
3	三 鷹 市	363.9
4	立 川 市	367.9
5	国 分 寺 市	370.4
⋮	⋮	⋮
20	福 生 市	466.8
21	町 田 市	467.7
22	小 平 市	492.6
23	武 蔵 村 山 市	496.6
24	青 梅 市	521.5
25	あ ぎ る 野 市	528.8
26	東 久 留 米 市	530.1

＜事業系ごみ＞

単位:g/人・日

順位	自治体	排出量
1	小 金 井 市	8.4
2	日 野 市	45.9
3	狛 江 市	52.8
4	国 分 寺 市	55.0
5	小 平 市	60.8
⋮	⋮	⋮
22	羽 村 市	121.3
23	町 田 市	127.2
24	八 王 子 市	130.8
25	国 立 市	134.0
26	多 摩 市	146.0

資料:一般廃棄物処理事業実態調査結果(2017年度実績)

■課題

<p><b>①ごみの発生抑制に向けた取組の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民・事業者自らが発生抑制に取り組める仕組みづくり</li> <li>・市民・事業者との協働の更なる推進</li> <li>・生ごみの更なる減量</li> <li>・事業系ごみの適正排出に向けた指導の強化、資源化の推進</li> </ul>	<p><b>④社会情勢や環境変化への対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsの達成に向けた啓発活動の推進</li> <li>・廃棄物に係る最新情報の把握、適切な対応</li> </ul>
<p><b>②資源化率の向上に向けたリサイクルの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民への分別協力を促す取組の更なる推進</li> <li>・資源化量増加に向けた仕組みの検討</li> <li>・増加しているごみへの対策の検討</li> </ul>	<p><b>⑤災害対応能力の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の体制整備や他自治体・事業者との連携強化</li> <li>・平常時からの啓発活動の実施</li> </ul>
<p><b>③資源ごみの安定的な処理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資源ごみ処理施設の早期整備</li> <li>・容器包装プラスチックの地域差解消</li> </ul>	<p><b>⑥確実なごみ収集の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的なごみ収集・処理体制の構築</li> <li>・誰もがごみ出しに困らない仕組みの構築</li> </ul>
<p><b>③資源ごみの安定的な処理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資源ごみ処理施設の早期整備</li> <li>・容器包装プラスチックの地域差解消</li> </ul>	<p><b>⑦コスト意識をもった施策への展開</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・費用対効果を意識した手法の検討</li> <li>・コスト削減と歳入の確保</li> </ul>

第2章 基本的な方向性

■基本理念・基本方針

本計画では、現行計画で進めてきた資源化に関する施策に継続して取り組むと共に、市民・事業者との連携を強化し、一人ひとりの意識を高める施策により、資源物を含む総ごみ量の削減に取り組めます。また、市の廃棄物行政を取り巻く内外の社会情勢に関する最新情報を迅速に捉え、SDGsのターゲットに掲げられた食品ロス削減や海洋プラスチック問題、毎年のように頻発する自然災害等に対応する取組を展開していきます。

なお、施策を展開する上では、費用対効果を意識して手法を検討すると共に、歳入確保等コストを抑える工夫を行います。それにより、市民・事業者・市の協働で進めてきた町田市の廃棄物行政の歴史を継承しながら、未来につながる持続可能で環境負荷の少ない都市を目指していきます。

以上を踏まえ、本計画の基本理念と、基本理念を実現するため、5つの基本方針を以下のとおり定めます。

**基本理念**

**町田市民・事業者・市は、「ごみになるものを作らない・燃やさない・埋め立てない」**  
**を原則として、徹底したごみ減量、資源化を進め、**  
**持続可能で環境負荷の少ない都市を目指します。**

### 基本方針1 市民、事業者との連携を強化し、協働による取組を進めます。

- 市民・事業者・市との連携を強化し、各人が主体的、継続的にごみ減量に取り組める環境づくりを行います。
- 子どもから大人まで、市民一人ひとりがごみに関する問題について自分事として取り組めるよう啓発活動を展開します。

### 基本方針2 家庭系ごみの減量を進めます。

- 食品ロスの削減をはじめとした生ごみの発生抑制を進めます。
- プラスチックごみや古紙、その他のごみの発生抑制、分別の協力を促す取組を進めます。

### 基本方針3 事業系ごみの減量を進めます。

- 事業者に対してごみの発生抑制、分別の協力を促す取組を進めます。

### 基本方針4 環境に配慮した資源化施設を整備し、適正かつ安全な処理に努めます。

- エネルギー回収率の高い環境に配慮した新しいごみ焼却施設等を整備します。
- 生ごみのバイオガス化施設を整備し、新たなエネルギー回収、生ごみの減容を行います。
- ビン、カン、ペットボトル、容器包装プラスチック等の資源ごみ処理施設を市内に分散して整備します。
- 費用対効果を意識し、収集・処理方法の見直しや資源化品目の拡大を図ります。

### 基本方針5 社会的課題への対応を強化します。

- 災害時のごみ処理に関する対応力を強化します。
- 超高齢社会の到来に伴い、ごみに関する問題に対応した仕組みづくりを行います。

## ■目標値の設定

### <目標設定の考え方>

#### ・指標

市民一人ひとりがごみ減量を自分事として意識できるように、次期計画では、以下の3つを指標として掲げます。

- ① 「1人1日あたりごみ排出量」の削減…資源を含む総ごみ量を削減します。
- ② 「総資源化率」の向上…ごみ排出量の内の資源化量の割合を高めます。
- ③ 「温室効果ガス排出量」の削減…焼却せざるを得ないごみの内の温室効果ガス排出量が大きいごみの資源化や削減を促進することで、排出量の抑制を図ります。

#### ・目標値

東京都が2019年12月に策定した「ゼロエミッション東京戦略」では、2030年に向けた一般廃棄物関連の主要目標として次の3点が掲げられています。

- ① 一般廃棄物のリサイクル率37%
- ② 家庭と大規模オフィスビルからの廃プラスチック焼却量40%削減（2017年度比）
- ③ 食品ロス発生量50%削減（2000年度比）

町田市も、これらの主要目標に準じて目標値を設定します。

※目標値は仮置き

**全体目標1 「1人1日あたりごみ量」を「714g/人・日」に削減します。**

○発生抑制を重視し、資源を含む総ごみ量を 120,593t（2019年度）から 109,093t（2030年度）へ削減します。1人1日あたりに換算すると、768g/人日（2019年度）から 714g/人日（2030年度）となり、54gの削減です。

$$1人1日あたりごみ排出量 = (\text{総ごみ量} + \text{集団回収量}) \div \text{人口} \div \text{日数}$$

※54gの目安は卵1個

**全体目標2 「総資源化率」を「40%」まで高めます。**

○生ごみのバイオガス化施設でのメタン化をはじめとした、資源化率の向上に向けた取組を進め、31%（2019年度）から 40%（2030年度）へ9ポイント向上させます。

$$\text{総資源化率} = \text{資源化量合計} \div (\text{総ごみ量} + \text{集団回収量})$$

※資源化量合計には焼却灰をエコセメント化する量も含む。

※バイオガス化による資源化量は、メタンガス重量換算量とする。

**全体目標3 「温室効果ガス排出量」を「2019年度比30%削減」します。**

○発生抑制及びプラスチックの資源化を推進し、ごみの焼却に伴う温室効果ガスの排出量を、約 33,000t（2019年度）から約 23,000t（2030年度）へ約 30%削減します。

$$\text{温室効果ガス排出量} = \text{一般廃棄物（プラスチックごみ及び合成繊維）の焼却に伴い排出される非エネルギー起源CO}_2 + \text{一般廃棄物の焼却に伴い排出されるCH}_4 \text{及びN}_2\text{O}$$

※「地方公共団体実行計画（区域施策篇）算定・実施マニュアル」（環境省）の算定式をもとに算定。